

ミーム論から見た知識論

知識とはなにか？

- ・あるエージェントが外界（環境）の状態を判断 情報処理と意思決定
- ・もともとは生存に有利になるように
 - cf . 人間の情報処理にもいろいろなバイアスがある。これは進化的なもの。
- ・現在は生存とは関係なく、知識の獲得そのものが目的化している。
 - cf . 自然科学の発展 暴走；理科離れ、科学離れ

知識のあり方の変化

- ・宗教的知識獲得方法.....一人ないし少数から多数への一方通行、多人数の教団
- ・哲学的知識獲得方法.....一人ないし少数による思索、少人数のサロン、サークル
- ・科学的知識獲得方法.....多数による事実の確認、多人数の学会
 - 知識の表現と獲得方法の普遍化
 - 数理的表現と自然科学的手法（仮説 - 演繹サイクル；反証可能性；知識ネットワーク）

知識とメディア

- ・メディアのあり方（例：出版形態）は知識のあり方と密接な関係にある
- ・セミナー、コロキウム モノグラフ（人文系）、学会誌（理工系） 教科書
- ・インターネットは何を、どう変えるか？
 - 活字からウェブへ = 単なる媒体の変化ではない。社会における知識のあり方そのものの変化。

現在の日本社会に必要な知識のあり方はいかなるものか？

- ・環境、社会、メディアが変われば、必要な知識も変わる。
- ・知識の中身（コンテンツ）も、伝達方法（教育）も、流通（メディア）も変わる。

では、何が、どう変わるのか.....？ とりあえず、科学未来館へ行ってみよう。

参考文献

- 佐倉統 『進化論という考えかた』（とくに第 5 章）講談社現代新書 [進化論の発想や枠組みによる分野越境の試み。]
- 佐倉統(文)・木野鳥乎(絵) 『わたしたちはどこから来てどこへ行くのか』ブロンズ新社 [進化生物学で“哲学”してみた、大人向けの絵本。木野さんのイラスト、すてきです]
- その他の文献は <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/sakuralab/index.htm> を参照。